

パネルディスカッション

「患者本位のカプセル内視鏡診療 ～検査体制、読影支援、Co-medical との連携」

座長 塩谷 昭子（川崎医科大学消化管内科学）

中路 幸之助（医療法人愛晋会中江病院消化器内科）

特別発言 加藤 智弘（東京慈恵会医科大学大学院器官病態・治療学消化器内科学）

座長の言葉

近年、患者本位の医療が提唱される中、診療への患者の主体的参加・多職種連携が望まれている。とりわけ、カプセル内視鏡検査の前処置を含むレジメンの遂行には患者の主体的参加が求められ、その受容性・安全性の向上のためには、患者側に立った検査体制・Co-medical の関わりが重要である。また今後検査件数の増加が予想され、患者への適時の検査結果のフィードバックのためには読影技師の支援が欠かせない。

本パネルディスカッションではこれら患者本位のカプセル内視鏡診療を実現するための検査体制・多職種連携について討論したい。検査体制、相互の連携が更に充実し、患者本位のカプセル内視鏡診療に寄与できれば幸いである。